

## 令和4年度第2回人材育成のための意見交換会 議事要旨

### 1 開催日時

令和4年12月23日（金） 午前10時10分～午前11時40分

### 2 開催場所

広島市役所北庁舎（中区役所）7階 第2会議室

### 3 出席者等

#### (1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者

深澤 悦子【座長】（広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科教授）

伊藤 唯道 （広島市私立保育協会 副理事長）

清川 里佳 （広島市私立幼稚園協会 副理事長）

正木 豊子 （広島市保育園園長会 代表）

増田 恵利子 （広島市立幼稚園長会 副会長）

#### (2) 事務局（広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局）

保育指導課 主幹

教育企画課 課長補佐、主査、指導主事、指導主事

指導第一課 主任指導主事、指導主事

教育センター 主任指導主事

### 4 議題（公開）

(1) 令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画について

(2) 研修と実践をつなげる研修スタイルについて

### 5 傍聴人の人数

0名

### 6 意見交換会資料名

- ・資料 1 令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画
- ・資料 2 研修と実践をつなげる研修スタイルについて
- ・参考資料 「幼稚園教諭・保育士等の人材育成の基本的な考え方」
- ・参考資料 各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力（発言要旨の中では、「必要となる力」という。）

### 7 出席者の発言要旨

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問があった。

※ ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

(1) 令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画について

- 広島市保育連盟及び私立保育協会では、今年度末に研修の詳細について最終決定する。令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画の完成はいつ頃を想定しているのか。その完成に合わせて私立保育連盟及び私立保育協会の研修の決定も揃えた方がよいか。

- 資料1の研修計画は3月に完成させる予定であるが、詳細の決まらない研修もあると思う。そのような研修がある場合は、開催日を記載するが詳細について調整中であることや、詳細が確定次第連絡する旨を研修一覧や研修メニューに記載することで対応してもよいのではないかと考えている。
- 令和5年度から各団体の幼稚園教諭・保育士等が一部の研修に相互参加することについて、各団体への周知はどのような状況か。
- 私立幼稚園協会、私立保育協会、広島市保育連盟へ必要となる力の活用について説明するとともに、令和5年度には必要となる力を示して相互参加可能な一部の研修を実施することをお伝えしている。
- 私立幼稚園協会のオンライン研修については、相互参加可能な研修に加えることが可能かもしれない。その場合はお伝えする。
- 広島市保育連盟が広島市から委託を受けて実施している研修については、詳細を5月頃に決定するものがあるため、そのような研修をどう整理して記載するのかを調整しておく必要がある。こども未来局が決定前に載せて良いというのであれば載せればよい。
- オンライン研修の予定になっているNo8～No16のテーマについては、このとおりで記載するのか。
- これは、広島市からの委託研修の主な内容を記載しているため、こども未来局と相談しながら、必要となる力の一覧と内容を合わせてテーマを決定し記載するとよい。
- 私立幼稚園協会では、全国私立幼稚園協会が作成している研修の俯瞰図があり、それを活用している。そのため、俯瞰図と必要となる力をすり合わせながら実施できるよう検討していきたい。
- 例えば、私立幼稚園協会の場合、広島市ではこのような研修をしているというのを括弧付けして記載するなどよいのかもしれない。
- No3～No5の広島市保育連盟の研修は3～5をセットで実施しているため、3つをまとめてどのような力を身に付けられるのかが分かるような記載にするとよい。
- 公立幼稚園では、保育を公開する研修会や研究会があるため、これも相互参加可能な研修の一覧に入れられるか検討していただきたい。
- 研修として位置付けるのかどうかで変わるのだが、各団体の公開保育を一覧にしたものを作成するのもよい。
- 公開保育が充実してきているように感じている。しかし、公開するための保育、作り込む保育が目的になっていると感じることがまだある。そうではなく、公開保育は普段どおりの保育が公開できるとよい。
- 公開保育に取り組むことが容易になってきたら、質をどう上げていくのかということを考えていかななくてはならない。

- そのためには、公開保育の振り返りの時間に良いことばかりを伝えている初期段階から、改善点を語り合える次の段階に進めるようにしていくことが重要であると思う。本当に語り合いを深めるためにはクリティカルに伝えなければ前には進まないのだが、それにはまだ至っていない。そのような語り合いができるようになるまでにはもう少し時間を要するかもしれない。
- 昔ながらの指導的な伝え方では語り合いにはならないため、伝え方を工夫しながら改善点を語り合えるとよい。
- 公立幼稚園で公開保育をする際には協議を必ず行っている。協議時間を十分にすることで、充実した意見が出されるので協議を重要視している。
- 幼稚園で十分な協議時間を保障されていることはとても大切である。しかし、保育園では保育時間が長いいため難しさがある。
- これまでの保育参観後の協議の仕方を振り返ると、両極端であると感じる。例えば、ひと昔前は厳しく指摘し合っていたが、最近は良いところのみを伝えて終わっていることが多い。その中間が必要であり、参加者の考えを伝え、保育実践の良い点も伝わるような協議ができるとよい。  
No 8～No 16の研修はオンラインとオンデマンド型のものがあるため、この部分の記載を最終的には整理していかなくてはならない。No 15は、園内研修をライブ配信で実施しており、個別に参加するというイメージではないため、実施に当たっての検討が必要になる。また、研修によっては、グループワーク中心のものがある。その場合オンラインに向くのかどうかということがあるため、オンラインで実施する研修についてはその説明があるとよい。例えば、講義の部分はオンデマンドが向いているが、グループワークになると、できないことはないが難しいこともある。
- オンラインについては、活用方法の具体例を示すと各園で活用しやすくなるし、これまでオンラインを利用したことのないような園等にも前向きに利用してもらえるようになるかもしれない。
- そういった意味では、研修メニューにどのように記載するとよいのかを考えるとよいかもしれない。
- 研修の一覧では幼稚園教諭・保育士等に年間に実施される研修を一目で確認してもらい、研修メニューではオンラインの具体的な実施について確認してもらえるようにしていきたいと考えている。
- どうやってよいのか分からないという理由で参加されないことも考えられる。本来は自分で考えて行動する力が必要なのだが、そういったことが苦手な方が使いやすいものを示すことも必要かもしれない。  
研修メニューに関することだが、研修の目的を記載した方がよいのではないだろうか。
- 各研修の目的は個別に示す方がよい。そういったところを詳細に示すことで研修の質を上げていくことになる。
- 各研修メニューの目的には、令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画の全体的な目的を各研修に即して具体的に分かりやすく記

載するとよい。

- 目的には、現在の課題とそれらを解決するために実施する研修であることがわかるように現状認識を入れられるとよい。

(2) 研修と実践をつなげる研修スタイルについて

- 研修計画をより充実したものにするためには「幼稚園教諭・保育士等の基本的な考え方」に記載されているような課題の解決に向けた努力も必要である。そのためにも日々の振り返りや目の前の子どもへの対応について共通認識を図る時間は欠かせない。3時降園の市立幼稚園でさえ研修の時間を確保することが難しい現状ではあるが、各自が研修で得たことを園内で共有し、学び合うことで、園全体の質の向上に繋げることが、これからの幼児教育において重要なことではないか。

- 現在、幼稚園教諭・保育士等は所属している各団体の研修を受講し、講演の聴講やグループワークでの協議などで学んだことを自身の保育に生かしていることと思う。今後、令和5年度広島市幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画を作成するに当たって、幼稚園教諭・保育士等が研修と実践をより充実させていくための視点やスタイルなどがあれば伺いたい。

- 幼稚園教諭・保育士等が外部研修で学んだことを保育に直結させることが重要である。外部研修で学んだことを園内で共有できることがベストだが、そういったことが難しい場合もある。そのため研修を受けた幼稚園教諭・保育士等が研修で学んだことを生かして保育を変化させることで、園内の他の職員にも良い影響を及ぼすようになるのではないだろうか。

研修時間の確保が難しいという点を客観的に考えると、幼稚園に比べて保育園はより時間の確保が難しいと思われる。

- 確かに保育園では、保育終了後から研修に取り組むケースが多い。幼稚園教諭・保育士等が資料2に記載してあるような思考形式を生かして研修に臨めるようになることは重要である。また、各園では先程意見があった研修時間の確保などの課題に日々対応しているため、各幼稚園教諭・保育士等がその振り返りをする際にも資料2のような思考形式を生かせるとよい。

- 幼稚園教諭・保育士等が外部研修で学んだことの全てを園内で共有できるとよいが、そうすることで園や幼稚園教諭・保育士等の負担になるようならば、共有の仕方を工夫するとよい。例えば、必ず職員が一斉に確認することが必要なのではなく、研修報告を各自が確認することで対応可能なものもある。研修の内容や各園の状況などに応じて共有の仕方を工夫し、可能な限り負担のないようにしていくとよい。

- 一斉に共有しなくてはならないということが目的になると幼稚園教諭・保育士等が疲れ果ててしまう。幼稚園教諭・保育士等の意欲を高めるための研修にすることが重要であるため、幼稚園教諭・保育士等が受けた研修を整理し、まとめるといったことを積み重ねながら、自身の職務を進められるようにするとよい。そうしたことを研修スタイルのひとつの視点として提示するとよい。

- 広島市保育連盟では往還的な研修を実施しており、研修に参加した保育士はその良さを実感している。保育士が他園の日頃の保育を参観して語り合うことが学びになっているようだ。

私立保育園では、園長や主任を対象に、子ども主体の行事とはどのようなものか、といったことを12月、1月、2月に3回セットで研修する。そうすることで、2月末には各園が自園の来年度の行事を組み立てられるような内容にしている。

- 先程、公立幼稚園で日々の振り返りを十分されているという話を聞き重要なことだと思った。資料2の記載内容にあるように、実践に対してその振り返りを日々行っておられるということである。  
資料2の研修と実践のつながりのイメージのような思考形式を幼稚園教諭・保育士等に分かりやすく伝えるためには、幼児教育・保育の実践は子どもを真ん中にしたものであることから、子どもの実際の姿が分かるような文言が加わるとよい。資料2では、自分の受けた研修だけで循環されているように見える。子どもの姿があり、実践し、改善し、子どもの姿が変化し、といったような言葉があるとよい。
- 子どもの姿が分かるような表現が入ることで、資料2の研修と実践のつながりのイメージを幼稚園教諭・保育士等が持ちやすくなる。
- 幼稚園教諭・保育士等が、自分で考えて行動し、自分の意見を述べられる力を身に付けられるようにする研修が重要だ。
- 幼児教育・保育は、子どもがみんなで遊ぶ楽しさを経験し、それぞれが自由に発言することや共感するといった体験ができる。例えば、そのような体験が小学校以降の学習につながらず、正解でなければ言葉が出せないような雰囲気の中で育った子どもが大学に入学し、そのまま幼稚園や保育園へ就職していく。学生を見ていてそう感じる機会があるのだが、そうであるならば、自由に発言し共感できるような経験のできる研修があるとよい。  
幼稚園教諭・保育士等が研修で学んだことを実践できるようにするためには、園の受け止めが必要である。受け止められる中で、幼稚園教諭・保育士等は工夫し、考え、語れるようになる。認められる環境でなければなかなか自分の考えを発言することは難しいのだと思う。  
強いポリシーを持った園が多いということを様々な園を訪問して感じている。そのような園では、幼稚園教諭・保育士等が自分の考えや取り組みたいことが言えないといった現状があるように感じる。
- 先程、クリティカルに考えるという言葉が出ていたが、皆と異なる考えを述べると批判はやめましょうといった雰囲気になる園内風土を変えていけるとよい。
- 言われたとおりにやる方が楽であるが、そうではなく、多様な意見を述べ合う機会や経験が幼稚園教諭・保育士等には必要である。
- 研修の中で、話し合う面白さを感じられるようになるとよい。また、そのような研修の後にそれを生かした保育実践に取り組み、子どもが変容する楽しさを感じられるような研修があればよい。
- 公立保育園でも語り合いの時間を大切にしている。講義を聞くだけではなく語り合うことが大切にされるような研修のスタイルがあることはよい。また、往還型の研修であれば、自分自身が次の研修に向けて考えた実践をしていくことが可能になる。

また、単発の研修ではそういったことが難しいため、研修後に保育士が一か月後の目標を持つようにしており、園長からのコメントを受けられるようにしている。

研修は受けるだけにとどまらず、その先が豊かになる研修となるようにしなくてはならない。

必要とする力の活用という点についてなのだが、まだ活用できる保育士が少ないことから、活用に向けた分かりやすい説明があるとよい。

- 先程まで出ていた話とは逆になるが、30代・40代の幼稚園教諭の考え方が固く、20代の幼稚園教諭の方が意見を持ち、活躍しているように感じている。30代・40代の幼稚園教諭の概念を柔軟にすることが重要である。また、この世代は出産や子育てなどが多い時期であり、現場から一度離れる方が多い時期になる。そういった方が活躍できるようにしていくことも重要であり、それらができれば、園全体が成長していく。